

三宅島の現状（その25）

平成14年2月25日
現地災害対策本部（三宅島）

【気象及び火山活動の状況】

冬型の気圧配置のもと、晴れまたは曇りの天気が多く続いています。朝晩は冷え込む日も多く、天気が多少崩れた後には、雄山がうっすらと雪化粧した姿もみられました。

神津と三宅を往復するはまゆう丸は、冬の港に接岸できない日が多くなっています。風が強くと波が高い日はもとより、風が弱い日でも、異なる方向の風が混ざることにより、うねりで桟橋に波がかぶる状態が続きました。20日から23日までは穏やかで暖かい日が続いた。

2月17日午後から18日未明にかけては、総雨量39ミリの雨が降り、道路冠水が数カ所でみられましたが、泥流の発生はなく、通行に支障はありませんでした。

21日夕方約一ヶ月ぶりに小噴火がありました。島の東部で微量の降灰が確認されました。気象庁では火山活動に大きな変化は無いと見えています。

二酸化硫黄(SO₂)の放出量については、2月14日の観測では1日当たり7,000～11,000トン、と、依然として多くの放出が続いています。風の弱い穏やかな日は、ガスは山腹まであまり降りてきませんが、風の強い日は風下側で高い濃度のSO₂が観測されています。

【復旧作業について】

砂防ダムの工事が本格化しており、島のあちこちでダム本体が姿を現してきています。ダンプトラックやコンクリートミキサー車が都道を走る姿も目に付くようになりました。これまでに完成した三七沢のダムのほか、14基のダム等の工事を進めています。

道路の復旧は、大沢、赤場暁、アカコッコ館前などで進めておきます。近々立根などで橋の工事に着手します。また、港湾の復旧作業も進んでおり、三池港では、はまゆう丸の接岸は、既に嵩上げ工事が完了した部分を使って行えるようになりました。

また、気象庁では無人ヘリによる火口付近での観測を行うための飛行実験を行いました。

【東京電力配電調査について】

2月11日から東京電力による各戸（阿古・坪田地区）の配電調査が行われました。警察など現地本部職員の立会いのもと、順調に作業が進み、11日に阿古地区で実施し、12日～14日は坪田地区で実施し、調査を終えました。

【就労情報】

村役場では就労情報を提供し広報しておりますので、就労を希望される方は三宅村村民課避難対策係（代表03-5321-1111 内線45-642）にご相談ください。

なお、直近の情報は、ホームページ「三宅島を離れた村民のみなさまへ」をご覧ください。

(アドレス <http://www.miyakemura.com>)

(問い合わせ先)

三宅支庁総務課行政係 電話：03-5320-7854

議会の動き(議長及び議員)

平成13年3月から平成14年2月

平成13年

三宅村議会

- 3月 1日・三宅村議会全員協議会開催。
3日・自衛隊13年度入隊予定者激励会出席。
4日・三宅高校卒業式出席。
10日・東京都平和の日記念式典出席。
〃・東京スタジアム開業記念式典出席。
12日・三宅村議会第1回定例会(第1日目)
13日・三宅村議会第1回定例会(第2日目)
14日・衆議院災害対策特別委員会が武蔵村山団地を視察、同行し対応。
15日・三宅村議会第1回定例会(第3日目)
16日・三宅村議会第1回定例会(第4日目)
19日・三宅村立中学校卒業式出席。
21日・三宅村議会第1回定例会(第5日目)
22日・三宅村立小学校卒業式出席。
23日・三宅村議会第1回定例会(第6日目)
23日・三宅村シルバー人材センター平成13年度第1回定期総会出席。
27日・NTT三宅島営業所廃止に係る説明に同席。
- 4月 4日・国に対して「三宅島噴火災害の長期化に対する支援を求める意見書」を提出。
(送付先)衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、内閣官房長官。
4月 6日・東京都知事に「三宅島噴火災害の長期化に対する支援を求める意見書」を提出。(石原知事、青山副知事、福永副知事、渋谷都議会議長と面談のうえ要望)
7日・三宅村立中学校入学式出席。
9日・三宅高校入学式出席。
10~13日・三宅村議会議員による三宅島現地災害状況調査を実施。
15日・第2回島民ふれあい集会出席。
23日・三宅村議会全員協議会開催。
25日・自民党、就任祝賀会に出席。
- 5月 1日・三宅島噴火災害復興対策特別委員会より、各避難先代表者宛に懇談会について依頼を実施。
8日・三宅島噴火災害復興対策特別委員会開催。
10日・げんき農場開所式に出席。
12日・村民説明会出席。(都庁5階会議室)
13日・村民説明会出席。(桐ヶ丘第4小学校)
18日・村井防災担当大臣外、げんき農場を訪問、同行し対応。
20日・村民説明会に出席。(武蔵村山第4小学校)
22日・三宅村議会第2回臨時会開催。
〃・三宅村議会全員協議会開催。
23日・平成13年度東京都島嶼町村議会議長第1回臨時総会出席。

- 〃 ・参議院災害対策特別委員会が桐ヶ丘団地を訪問、同行し対応。
- 24日・東京都町村議会議長会臨時総会出席。議員研修会出席。
- 25日・三宅村シルバー人材センター定時総会に出席。
- 26日・村民説明会出席。(南大沢文化会館)
- 28～30日・災害被災地現地視察研修実施。(有珠・雲仙・鳥取の三班に分かれて実施)
- 6月 3日・平成13年度東京島嶼郷友連合会定期総会に出席。
- 4日・国土交通省副大臣が激励のため村役場に来庁、対応する。
- 5日・三宅島噴火災害復興対策特別委員会開催。
- 12日・三宅島噴火災害復興対策特別委員会開催。(視察報告書編集委員の選任)
- 22日・三宅島噴火災害復興対策特別委員会開催。(視察報告書編集作業)
- 〃 ・東京大学廣井教授との懇談を実施。
- 27日・三宅村議会第2回定例会開催(第1日目)。
- 28日・三宅島噴火災害復興対策特別委員会開催。
- 7月 2日・三宅島噴火災害復興対策特別委員会開催。
- 4日・国立市に避難している島民と地区担当議員で懇談会開催。
- 10日・埼玉県内に避難している島民と地区担当議員との懇談会開催。
- 11日・足立区に避難している島民からの問い合わせに回答。
- 15日・江東区に避難している島民と地区担当議員との懇談会開催。
- 19日・三宅村議会全員協議会開催。
- 21～22日・長野県高遠町・絵島祭りに参加。
- 30日・三宅村議会全員協議会開催。
- 8月 10日・三宅村議会全員協議会開催。
- 〃 ・東京大学廣井教授との懇談を実施。
- 12日・練馬区に避難している島民と地区担当議員との懇談会開催。
- 20日・三宅村議会第3回臨時会開催。
- 22日・福祉局長、総務局長に支援策について要望活動。
- 30日・青山副知事、衛生局長、産業労働局長、環境局長、住宅局長に支援策について要望活動。
- 9月 7日・内閣官房長官に支援策について要望活動。
- 9月 28日・三宅村議会第3回定例会開催(第1日目)。
- 30日・第3回島民ふれあい集会出席。
- 29～30日・長野県高遠町合併45周年記念式典出席。
- 10月 4日・三宅村議会第3回定例会開催(第2日目)。
- 9日・平成13年度東京都島嶼町村議会議長会第2回臨時総会出席。
- 〃 ・東京都町村議会議長会臨時総会出席。
- 14日・小金井市民まつり出席。
- 18日・三宅島噴火災害復興対策特別委員会開催。
- 22日・三宅村議会全員協議会開催。
- 23日・稲城市に避難中の島民と地区担当議員で懇談会開催。
- 26日・三宅村議会第4回臨時会開催。
- 11月1～4日・三宅村議会議員による三宅島現地視察調査(11月2日村役場泊)。
- 10日・三宅島災害・東京ボランティアセンターでの島民連絡会に出席。
- 12日・三宅島噴火災害復興対策特別委員会開催。
- 13日・平成13年度東京都島嶼町村議会議長会第3回臨時総会出席。
- 〃 ・第20回離島振興町村議会議長全国大会出席。

- 14日・第45回町村議会議長全国大会出席。
- 15～16日・東京都町村議会議長会、議員研修出席（大島町）
- 21日・衆議院災害対策特別委員会を傍聴。（議長は参考人として出席）
- 29日・三宅村議会第5回臨時会開催。
- 〃 ・三宅村議会全員協議会開催。
- 30日・平成13年度東京都島嶼町村一部事務組合第3回臨時会出席。
- 12月 4日・国立市に避難中の島民と地区担当議員で懇談会開催。
- 6日・東京都災対策部長他と三宅島の状況について対談・要望。
- 18日・三宅村議会第4回定例会開催。（第1日目）
- 19日・三宅村議会第4回定例会開催。（第2日目）
- 20日・三宅村議会第4回定例会開催。（第3日目）
- 20～24日・国家予算獲得運動・離振法延長要望活動参加。
- 25日・東京都町村議会議長会・臨時総会。

平成14年

- 1月 14日・平成14年度三宅村成人式出席（ザ・クレストホテル）
- 18日・三宅村議会第1回臨時会開催。（別紙会議概要を添付）
- 〃 ・三宅村議会全員協議会開催。
- 〃 ・三宅島噴火災害対策特別委員会開催。
- 20日・小金井市民と島民との交流会（議長出席）。
- 21日・三宅村議会全員協議会開催。
- 22～23日・小金井市友好協会と島民で、山梨県への親睦旅行（議長出席）。
- 26日・小金井市桜政会による激励会（議長、副議長出席）。
- 2月 1日・三宅村「ゆめ農園」開園式。
- 13日・東京都町村会創立80周年記念式典（京王プラザ）
- 14日・七島学生寮・評議員会。
- 15日・島嶼町村一部事務組合定例会。町村会・議長会。島嶼議会議長会定期総会。
- 2月 17日・八王子市長沼地区に避難中の島民と議員との懇談会。於：カスガ会館。
- 〃 ・葛飾区三宅島会と議員との懇談会。於：高砂団地集会所。
- 〃 ・港南三宅島会と議員との懇談会。於：港南3丁目アパート自治会集会室。
- 18日・都町村議会議長会定期総会。於：自治会館4階会議室。
- 20日・三宅島噴火災害対策特別委員会開催。於：14委員会室。
- 〃 ・三宅村議会全員協議会開催。於：議会棟14委員会室。
- 22日・田並 衆議院災害対策特別委員会委員長に「三宅島噴火災害等に係る災害対策について」要望書を提出。村長、議長同行。
- 28日・離島振興法改正・延長実現決起大会。実現要望運動。延長促進懇談会。

平成14年三宅村議会第1回臨時会より（抜粋）

平成14年三宅村議会第1回臨時会が1月18日、都庁議会棟第14委員会室で開催され下記のとおり原案可決されました。

議案第1号 平成13年度三宅村一般会計補正予算（第10号）

議案の概要

補正予算額は、33,950千円で、その内32,150千円は第3回目の島民等の一時帰宅のための経費となっております。

質疑の概要（抜粋）

Q・前回実施後、「自費でも三宅に行かせる」との要望がある。今回3回目を実施されても、何らかの理由でまたいかれない方があった場合、近い将来に自費でも行きたいと言ってる人達がいるのに、まだその人たちが残っているから行かせないよということになるのか。

A・今回をもって一時帰宅は終了すると考えている。後段の質問については今後の課題と考えている。

Q・前回、自宅と商店を持っている場合、自宅にはいけるけど離れた商店にはいけなかった。今回は無料での最後となるがそのへんはどうなるのか。

A・行政側でも協議をしてきたが、商工会・観光協会などの方々については前回事業を実施しており、商店等に行っていると判断しており、あくまでも自宅に対する一時帰宅を考えている。

Q・住民の中には自費でもいいから、もう一度島に行って、自分の家をよく見て、大工さんと相談したいと言う声があるが、それについてどう考えているか。

・村長が先日テレビでの発言で「6月に帰れる」と言った。と村民が言っているがその辺の事実関係はどうか。

・財源確保について、税金の確保が難しい状況であり、議会も協力するので補助金の確保など十分な努力をしていただきたい。

A・今後の継続的な一時帰島、有料・無料を含めて、今後の大きな行政課題と考えており、今後の宿題とさせていただきたいので、ご理解をお願いしたい。

・テレビでの発言については「復興計画が出来上がるのが6月末ごろであろう。」ということを上申しました。帰島と言う言葉は一切使っておりません。

テレビを見た方が勘違いをされていると思います。

・財源の確保については、東京都・国に対しても今後も出来るだけ努力して、村債とか、基金の取り崩しのないよう努力していきます。

Q・今回の補正予算については、ほぼ一時帰宅の実施にかかる補正予算ですが、ほぼ3千万、対象人員が全員参加して約600人、1名あたりおよそ5万円、机上計算ではそうなりますが、先ほどらい言われているように、この一時帰宅が終わってから次の第二段、「自己負担でもいいから島に帰りたい。」という声がたくさんあがっている。

「国・東京都も相当厳しい中で、三宅村にはかなりの金を投じている。」・「15年度はさらに厳しい予測がされる」といっていると言う知事の記者会見での発言について行政はどう考えるのか。

A・自己負担による一時帰宅については、先ほども述べたように行政にとって大きな課題と受け止めているので、研究を重ねて詰めていきたい。

- ・島民等を年度内に一度全世帯を帰島させたいと、詰めをしてきたところですが、別荘等保安上の問題を詰めることで、今回の提案になったところである。
- ・財源確保については各種事業・補助制度等の研究をしながら財源確保に努めていきたい。
- ・知事発言については今後真意を確認したい。

Q・先日、「屋根の調査を職工組合がやりますので申し込んでください。」という案内状がきましたんですが、12月の議会で確認したとき「1月になったら村が全世帯を対象に写真を含めて各家の調査をする。」と言うふうに答弁されたのを記憶しているんですが、それと今回の職工組合から調査の申込書がきているがそれと村との関係は。

・ブルーシートは掛け始まっていると思うんですが、実際の工事はどの辺まで進んでいるのか。

A・職工組合へ申し込みをと言う文書の話ですが、村のほうで全世帯を対象に屋根の調査をしますと言うことで、村としては全世帯といっても対象にならない鉄筋あるいはコロニアルの屋根とかそういう家もあります。ですから全世帯のうちその可能性のある家であれば村のほうに申し出てくださると、村のほうで図面を作成して、調査位置図を作って調査をかけます。村のほうで直接調査に行っても屋根の老朽度は私が見てもわかりません。ですから、村の職員同行で職工組合の職人さんを連れて行って調査をして、判断をして、写真をとって送ると言う方向で今考えています。工事の件につきましては、ブルーシートについては今やっています。

議案第2号 三宅村役場脱硫宿舍建設工事請負契約の締結について（概要）

三宅村役場の駐車場に、40名宿泊可能な脱硫装置付きの建物を作り、村が発注する村道などの作業員や、クリーンセンター、職工組合員等の宿泊施設となるものです。

請負業者 五洋建設株式会社

以上、概要であります第1回臨時会の状況について報告いたします。

※ 正式な会議録ではありませんので、内容が異なることがありますのでご了承ください。

平成14年2月

三宅村議会議長 山田和快

平成14年3月1日
三宅村

火山活動に関する説明会開催のお知らせ

先日お配りしたように、2月1日に気象庁から「三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解」が発表されました。

そこで、三宅村では気象庁にお願いして、島民向けの「統一見解」の分かりやすい解説と、今後の火山活動の見通しについて、下記のように説明していただくことになりました。

恐れ入りますが、会場の都合がありますので、参加する方は事前に電話でお申し込みください。皆様の振るっての参加をお待ちしております。

記

- 1 日 時 平成14年3月14日(木) 13:30~15:30
- 2 場 所 気象庁2階 講堂
- 3 説 明 者 井田 喜明 火山噴火予知連絡会会長
渡辺 秀文 " 伊豆部会長
- 4 募 集 人 員 250人
- 5 申し込み方法 電話申し込み TEL **03(3435)7141**
(三宅村東京事務所)
9:00~17:00(土日を除く)
- 6 申し込み期限 平成14年3月8日(金)
- 7 参加資格 三宅島島民

(島民証明書や保険証など、三宅島の住所がわかるものをお持ちください。)

平成14年2月27日
三宅村農林水産業整備担当課

『三宅島関連研究発表会』の開催について

東京都農業試験場では、三宅島の噴火災害に伴って島内全域に及んだ降灰による火山灰の農地等への影響などについての試験研究を行なって来ております。

その研究成果の現況について、昨年引き続き下記のとおり発表会が行われます。

お忙しい時節とは存じますが、多くの皆さま方のご出席をいただきたくお知らせいたします。

記

- 1 開催日時 平成14年3月16日(土) 午後2時～午後4時
- 2 場 所 東京都農業試験場
(東京都立川市富士見町3-8-1)
- 3 発表内容 ①三宅島農地の土壌および火山灰の理化学性の変化
②火山灰が混入した土壌における園芸作物の成育・収量
③火山灰が堆積した土壌における園芸作物の成育・収量
④三宅島内の園芸作物の成育状況
- 4 交通経路 「立川駅北口バスターミナル」から南口行き(西武バス)にて農業試験場で下車。
または、「立川駅南口バスターミナル」から北口行き(西武バス)にて農業試験場で下車。

※ なお同会場では、三宅島現況耕作地の一筆ごとについて、昨年12月に東京都と村が共同で行なった「三宅島被災農地等の現況調査」の概要報告書の配布や現状写真集の縦覧、農地等の現況ビデオ放映を予定しております。

《問合せ先》

三宅村役場新宿総合事務所
災害復興室農林水産業整備担当課農林係 長谷川
☎ 03-5320-7828

三宅村農業者の皆様へ

パソコン講習会開催のご案内

東京都農業会議

三宅村民の皆様におかれましては、長引く避難生活に対し、心よりお見舞い申し上げます。

さて、本会は農業委員会の都段階の系統組織であり、農業者を対象とする経営支援の一環として簿記記帳やパソコンの講習会に取り組んでいます。

このたび、三宅村農業者の皆様に向けて下記の通りパソコン講習会を開催することといたしました。

つきましては、ご多忙の折とは存じますが、お仲間同士でお誘い合わせのうえ、ご参加いただければ幸いです。

1. 日 時

平成14年3月17日（日） 午後1時30分～4時30分

2. 会 場

新宿区西新宿1-21-1 明宝ビル4階 FJBエージェント

* 裏面案内図をご覧ください

3. 講習会の内容

パソコン操作とインターネットの基礎講習を行います。

初心者のレベルに合わせて、楽しみながら操作の初歩を習得できるような講習会ですので、お気軽にご参加下さい。

当日の講師は専門のインストラクターにお願いし、補助して下さるアシスタントもいます。

4. 参加申し込みについて

東京都農業会議までお電話でお申し込み下さい。参加費は無料です。

なお、パソコン台数に限りがあるため、参加者は申し込み順に16名様までとさせていただきます。あらかじめご了承ください。

主 催 : 東京都農業会議 (電話03-3370-7145 担当: 田中)

協 力 : 三宅村農業委員会

焚き火を囲んで

寒い日に、煙に巻かれながらも焚き火で暖をとるのは気持ちがあごむものです。昼休みのひと時、焚き火を囲んでの話題に耳を傾けてみました。

げんき農場で4月から引き続いて働けると言うことになって安心しました。避難している三宅の皆さんたちも喜んでいてと思います。関係者の皆さん方の努力に感謝します。

朝礼などで三宅島の状況などを教えてもらえるのが、とてもありがたいです。げんき農場は貴重な情報源にもなっています。



温暖な三宅島と違って、八王子は寒いところだと聞いていたので、果たして寒さに耐えられるかどうかとても心配でした。昨年は雪の降った日もありましたが、今年は天候に恵まれて割合暖かく、風邪も引かずに働く事ができてとても良かったと思っています。

農場で企画された3月9日の「三浦半島イチゴ狩り」には、大勢の皆さんと一緒にいけるので今から楽しみにしています。前期で働いた場員の人やほかの三宅の人たちとも交流できることは本当にありがたく思っています。また、三浦海岸で海が見られることを待ち遠しく思っています。

写真：黒田益夫、坂田定行、村上規一、村上知英美、彦坂征尾、長谷川匡司、小笠原ミドリ、高田彰、高田美代子、平石光子、山田登喜江、浅沼正子 (順不同・敬称略)

来場者紹介

次の方々が遠路のところ当農場を訪ねてくださいました

【見学等】

- ・八王子市農林課 住田係長 外1名
- ・鈴木幸一郎さん(三宅島坪田出身)
- ・浅沼実さん(三宅島神着)
- ・元伊豆駐在警察官 吉村守夫さん 外1名
- ・奥住さん(三宅児童・生徒支援センター)

【取材等】

- ・読売新聞八王子支局

(順不同)



三宅島「げんき農場」だよりのバックナンバーは、三宅島のホームページ「村民の広場」の「げんき農場情報」でもご覧になることが出来ます。こちらでは掲載写真がカラーでご覧いただけますので、インターネットをご利用できる方は是非ご覧下さい。

「村民の広場」アドレス -> http://www.miyakejima.gr.jp/info_miyake/

三宅島「げんき農場」だより

発行元 三宅島「げんき農場」
所在地 八王子市宇津木町236-1
Tel&Fax: 0426-27-4355
e-mail: genki-farm@nifty.com

げんき農場点描

昨年の11月で収穫作業も全て終了、農場一面は寒々とした冬のたたずまいをしていますが、このような中にあっても場員は春の作付けの準備に追われています。

また、収穫した種芋なども施設の中で着々と植付けられる本番を待っている様です。これらの様子を追ってみました。

(1) 圃場の区画整理と草地の開墾

当農場には14の区画に分けられた、計1.3haの農地があります。しかし、畑の区画がデコボコで作業をするのにも何かと不便を感じていました。そこで今回、作業の効率化を計るため区画を整理しました。

また、敷地内には有機質に富んだ良好な土壌ながら、荒れた草地になったままの場所がありました。この土地を、ひよどり山の北風の吹きつける寒さともわず草を刈り、耕運機で草の根を起し、その根を拾って素晴らしい良畑に甦らせています。この作業で増加した畑の面積は3区画・約30a(3,000㎡)になりました。

三宅島特産の赤芽里芋やアシタバの苗を植付ける畑にするんだと、場員の胸が大きく膨らみ希望に燃えています。



(2) 三宅島特産の「赤芽里芋」の貯蔵

昨年の秋に収穫した「赤芽里芋」を今年の種芋として貯蔵していますが、かけがえのない貴重な種芋なので、万全を期すため危険分散をして貯蔵しています。

【貯蔵方法】

- 1) ビニールハウス内に貯蔵室を設けての貯蔵
- 2) ビニールハウス内に30cm程の覆土をして貯蔵
- 3) 畑を約1m程掘って覆土をして貯蔵



種芋は長い冬の眠りに入っていますが、先日掘り出して様子を見たところ、その眠りの中でもしくしくと息づき、力強い赤い芽を出していました。



② アシタバの越冬

アシタバは伊豆諸島など、暖地で栽培する作物なので、ここ八王子での越冬は初めての試みです。

防寒対策として、都立小宮公園の協力で公園の雑木林から落ち葉を集め、その落ち葉と不織布(パオパオ)で覆って寒さを防いでいます。落ち葉の下からアシタバのみずみずしい太い若芽がたくましく伸びてきています。

霜の降りない陽春の3月下旬まで頑張ってくれることを期待しています。



【年明け早々に行った落ち葉まきの作業】



【落ち葉を押し退けて顔を出す若芽】

④ 春の草花・球根・宿根の植付け

昨年は、夏はポーチュラカ、秋はコスモスの花が農場を埋めてくれました。今年は2号圃場等を中心に、農場周辺をユリ類、水仙、ヒヤシンス、アネモネ、ランキユラスなどの草花で彩りすることにして、球根・宿根類を植え付けました。

1月に神奈川県立中央農業高等学校の生徒の皆さんが植えてくれたユリ・チューリップと共に、今年は赤芽里芋・アシタバなどが色とりどりの花に囲まれて育つことでしょう。また小宮公園や近くを散策する市民の皆さんの目を楽しませてくれることと思います。



場員の声



高田 彰
(八王子市上柚木在住:神着)

「島に帰れる日を願いつつ」

避難生活を始めてからあっという間に時が経ち、当初は三ヶ月か半年かと考えていたのですが、もう一年半も過ぎてしまいました。毎週金曜日のNHKテレビでの三宅島情報で雄山のガスの状況や避難島民の皆さんの活躍振りなどを見ていますが、出るのはため息ばかりです。

私も今、げんき農場で皆さんと一緒に働かせてもらってます。前期の方々から引き継いだときにはコスモスの花が咲き、畑一面にアシタバ、里芋、サツマイモなど収穫間際の作物がありました。短い期間内の収穫なので忙しく、また楽しく収穫作業ができました。

今は、春からの作物の植付け準備のため、畑の整備をしながら一日も早く三宅島に帰れることを願いつつ、その日が来るまで体を動かしたいと思っています。

「夫と二人で」

三宅島げんき農場で働くようになって、最初は仕事のことや初めて会う島の人たちのことなどで不安だったけれど、今は毎日楽しくやらせていただいています。

農場に来ているおかげで、北島三郎さんの家にお伺いし奥様とも楽しくお話することができたり、また「八王子祭り」の花火やその他色々な催しに招待していただくなど、関係者の皆様には大変感謝しております。

でもやっぱり三宅島で息子家族と暮らしていた日々を懐かしく思い出します。早く元通りの生活に戻れるように祈りながらの毎日です。それまでは体に気を付けて爺さんと二人で頑張りたいと思っています。



森下 みどり
(八王子市上柚木在住:神着)

「春めいてきて」

三宅島の外での避難生活も一日一日、過ぎて行きます。当初はつてを頼って避難生活を始めましたが、その後都営団地に移ることができました。その武蔵村山団地での生活も既に11ヶ月になります。

初めての都会生活は右も左も分からず、商店を探すのにもひたすら歩いたものです。この頃は慣れてきたとは言え、やはり気に掛けるのは島の事です。そして東京で農作業をすることは夢にも思いませんでした。



黒田 益夫
(武蔵村山市在住:阿古)

島にいれば今ごろは、「ムク」や「ハンバ」を探りに「釜方」へ通っている頃です。早く島へ帰って野菜たっぷりの「カシカメ」鍋が作りたいですね。寒い冬ももう少しで終わりです。元気で島に帰る日を、げんき農場の花が咲く日とともに待ちましょう。

【編集注】 (*) ムクやハンバ: 両方とも釣り餌にする海草 (*) カシカメ: 魚の「ブダイ」のこと
(*) 釜方【かまかた】: 三宅島の地名、三宅島空港の西側周辺の地域、磯釣りのポイントでもある

「講演会／がんばれバードアイランド」報告

去る2月2日に、横浜市の南端、三浦半島の付け根部分にある栄区の上郷・森の家という施設で、横浜自然観察の森友の会主催「三宅島復興応援講演会／がんばれバードアイランド」が開催されました。講演会前半は、アカコッコ館レンジャーによる、三宅島の自然の魅力と噴火開始から全島避難までの話題提供、続いて、後半では横浜自然観察の森の藤田レンジャーから、噴火後の東京都環境局の調査で島に渡ったときの様子などについて報告がありました。講演会には25名の参加があり、講演後には以下のような質疑応答が行われ、その後「復興後には三宅島ツアーをしよう」という声もあがり、有意義な講演会となりました。

質問) ウメバチソウなど山頂部分の植物では、絶滅したものもあるようだが、移植するなどの保護とかできないのか?

回答) まだ牧場から上の方など、入れないところがある。絶滅したかどうかは、今後の調査が進まないとなんとも言えない。

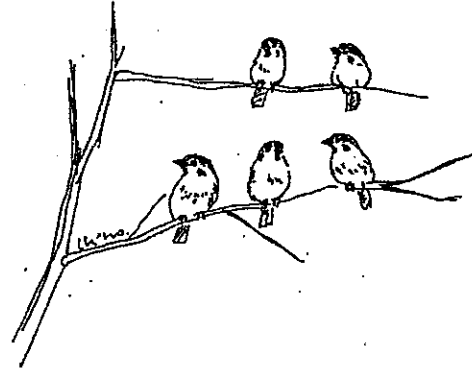
具体的な保護策などは検討されていないが、近くの島から移植はしない方が良さそう。

質問) スズメがいなくなったと報告があったが、人が避難したからとかもあるのでは?

回答) あるかもしれないがはっきり分からない。冬にはスズメはいなかったが、繁殖期にはヒナも生まれていた。人がいないことで、ネズミやイタチが、家の中に入ってきており、フンなどの害がひどい。

質問) ペットはどうなっているのですか?ノネコの害もあるのでは?

回答) 飼われていた犬は島外へ連れ出されたが、ネコは港周辺や山林に残っているものがある。ノネコやイタチなどと同じように野鳥への影響もあるだろう。



【講演会へ参加しての感想】私は、噴火する以前の三宅島には行ったことがないのですが、噴火が落ち着き、島へ上陸できるようになったら、是非、行ってみたいと思いました。今回の噴火によって、影響を受けた島の自然が元気を取り戻し、また、島を離れざるを得なかった島の住民の方々が、1日でも早く帰島できることを祈る次第です。(友の会会員／高橋剛さん)

三宅島自然ふれあいセンター アカコッコ館

〒100-1211 東京都三宅島三宅村坪田4188

TEL: 04994-6-0410 FAX: 04994-6-0458 一時休館中。

〈連絡先〉 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1F

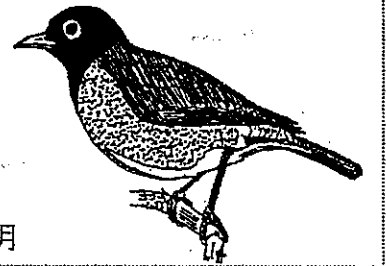
(財)日本野鳥の会サンクチュアリセンター

TEL: 03-5358-3517 FAX: 03-5358-3608

http://www.be.wakwak.com/~wbsjsc/index.html

あかこっこ

No. 89 2002年 2月



早春の三宅島を思い描きながら...

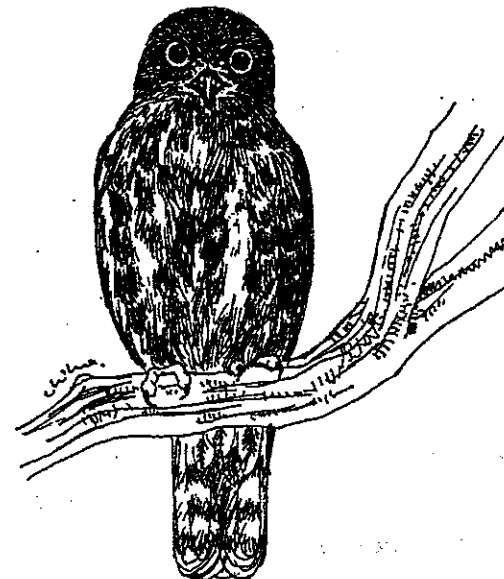
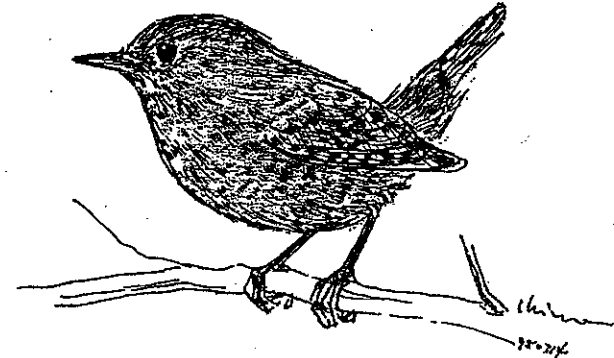
■早春の生きものたち

三宅島自然ふれあいセンターの情報誌「あかこっこ」も避難先から2回目の発行となりました。これまでのデータをもとにした、早春の三宅島の生き物情報をお知らせします。

2月、ふもとに残っている森林では、ミソサザイやヤマガラ、シジュウカラなどがさえずり始める季節です。夜になると、アオバズクが早くも鳴き始めます。沖合いの三本岳(大野原島)には、カンムリウミスズメも子育てに帰ってきます。

長太郎池では、アメフラシ、ヤドカリ、ヘビギンポなどが産卵の季節を迎えます。

ヤブツバキやアロエの花に加えて、森林では、春の訪れを告げる、カジイチゴ、ハチジョウキブシ、シチトウスミシなどが可憐な花を咲かせ始めます。ヒキガエルが産卵するのも2月中旬です。



3月にはいと日差しがやわらかになり、一層春の気配を感じるようになります。東南アジアなどの南方で冬を過ごしていた野鳥たちも島に帰ってきます。その第一陣がツバメやアマツバメです。下旬になると、伊豆諸島と南西諸島のトカラ列島でしか繁殖していないウグイスの仲間・イイジママシクイが帰ってきます。三宅島で冬を過ごしたオシドリやツグミなどは北へと向かい、代わりに島で春から夏を過ごす野鳥が訪れるようになります。

■三宅島に関する活動報告

□視察レポート「有珠山から学ぶ三宅島復興」

アカコッコ館では、帰島後の運営計画づくりに向けて、三宅島同様の火山災害に見舞われた地域の現地視察を行っています。前回の長崎県普賢岳に引き続き、今回は北海道の有珠山のレポートをお届けします。

「有珠山から学ぶ三宅島復興」

三宅島よりもわずか3ヵ月前に噴火した有珠山。最近の報道では、被害を受けた温泉街は、7割の観光客が回復し、早くも復興の兆しを伝えています。その背景には、住民による主体的な復興運動があったといえます。

■有珠山2000年噴火の特徴■

平成12年3月31日、有珠山は麓の温泉街からわずか数百mのところでは噴火しました。このため、噴火の規模の割に建物や道路など建造物への被害を大きくし、後の噴火遺構物が多数生まれることになりました。

また、人的被害については北海道大学の研究機関による地震予知と行政のすばやい対応によって、その発生を抑えることができたのも大きな特徴です。このときに生まれた、住民と火山学者との信頼関係は、後の住民による復興運動へとつながっていきます。

■住民による温泉街の復興活動■

有珠山の噴火直後、議員や自治会など、本来住民の声を吸い上げる機関が機能しなくなりました。住民は、町の復興方針に対して、意見を言おうとしましたが「非常時だからしょうがない」といわれ、

意見の持って行き場がなかったそうです。そのような状況の中、火山学者は早くから住民に次のようなことを訴えていたといえます。

「噴火の遺構物を保存することが、火山学習の生きた教材になり、今後の観光の目玉にもなる。」

「行政に頼らず、住民自身が声をあげていかなければ駄目」

火山学者の示唆に触発されるようにして、様々な住民の会が組織されていきました。

《有珠山再生の会》

壮瞥町、虻田町の住民が連合して「有珠山再生の会」が7人で立ち上げられました。会合は火山の勉強会も含め、週1回の割合で30回以上にもおよんだそうです。この中の虻田町に住む4～5人のメンバーが後にご紹介する「560万人のワークショップの会」の立ち上げに参画しました。

《有珠山ガイドボランティアの会》

2000年7月10日に、地震予知連絡会が事実上の安全宣言を出してから約3ヵ月後、10月末に「有珠山ガイドボランティアの会」が設立されました。

その活動は、観光客を温泉街に呼び戻すことを目的に、噴火によってできた、火口を観光客にガイドするというものです。

《560万人の観光地づくりを考えるワークショップの会》

この会は、噴火の遺構物を保存したまちづくりの提言を目的として、2001年1月5日に設立されました。会の設立から7ヵ月後の8月6日には「火山遺構の保存と砂防空間の有効活用をめざす洞爺湖8.6宣言」を出し、8月9日には噴火遺構物の保存を求めた要望書を、虻田町、北海道、国土交通省に提出しています。

今回お話を伺った住民グループの方々、火山学者と住民との関係を次のよう

□各地で「三宅島報告会」を行いました！

アカコッコ館では、島の自然の豊かさや2000年噴火の様子を広く一般の方々へご紹介し、三宅島への関心をより深めていただくため、今年度「三宅島報告会」を各地で実施しました。これまで12回の報告会を実施し、のべ233人の参加がありました。

【実施結果】〔開催日／主催／場所（参加人数）〕

2001年4月15日	REIジャパン・町田市（2）
// 4月20日	東京YMCA・世田谷区（17）
// 5月5日	八丈ビジターセンター・八丈町（22）
// 5月30日	パタゴニア神田・神田（13）
// 6月24日	日本野鳥の会埼玉県支部・さいたま市（38）
// 7月8日	21世紀の森と広場・松戸市（24）
// 7月21日	所沢木鶏会・所沢市（18）
// 10月12日	財団法人日本野鳥の会・渋谷区（5）
// 10月13日	財団法人日本野鳥の会・渋谷区（5）
// 11月18日	ジャパンバードフェスティバル・我孫子市（37）
// 11月20日	新島文化協会・新島（27）
2002年2月2日	横浜自然観察の森友の会・横浜市（25）

に語ってくれました。

「被災当事住民は復興への自信を失っていた。火山学者は住民を励まし、その上で様々な示唆をしてくれた。火山学者の励ましや示唆がなければ自分たちはやれなかつたろう。復興の主体は住民である。その上で、外の間人は住民を励まし支えてくれた存在だった。」

この構図は、三宅島の復興を考える際にも当てはまるでしょう。外の間人である私たちには、三宅島の復興に対してどのような関わり方ができるのか、島民の方々の声を聴きながら探っていきたいと思えます。（(財)日本野鳥の会 箱田敦 只）

「人と自然にやさしい健康で豊かな村」を目指して

三宅島民の皆さまへ

「三宅村復興基本計画」を創るのはあなたです。

現在、三宅村復興計画策定委員会において三宅島の復興に関する計画を検討していますが、本委員会では島民である皆さんのアイデアを取り入れた「復興基本計画」にしたいと考えていますので、皆さんの幅広いアイデアをお待ちしています。(どんなことでも構いません。)

なお、名前等の公表は一切いたしません。

三宅島を復興させるためのあなたのアイデアを下記ファックスにお寄せください。

FAX番号

03-5388-1603

※ファックス送信が困難な方は、三宅村新宿総合事務所宛に郵送でも構いません。また、メールでも受け付けます。(メールアドレス miyake_c@miyakemura.com)

○ 受付期間	平成14年3月1日(金)～4月30日(火)まで
○ FAX受付時間	24時間
○ 記載していただきたい事項	住所、氏名、年齢、連絡先電話番号を明記。
○ お問い合わせ先	〒163-8001 新宿区西新宿 2-8-1 都庁第1庁舎南 41 階 三宅村新宿総合事務所 復興計画担当課内 三宅村復興計画策定委員会事務局 <電話番号> 03-5320-7826

三宅村復興計画策定委員会